

## II 基準ごとの自己評価

## 領域6 教育課程と学習成果に関する基準

※全ての教育課程について、第三者評価結果の活用なし

: 「該当なし」

基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること			
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄	備考	再掲
[分析項目6-1-1] 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること	・ 策定された学位授与方針		
	<a href="#">6-1-1-01 (01)現代システム科学域 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)</a>		
	<a href="#">6-1-1-02 (01)現代システム科学域 アセスメントシート (非公表)</a>	分析項目6-1-1	
<b>【特記事項】</b>			
① 上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。			
[分析項目6-1-1] アセスメントシートとは、教学アセスメントに係る実施方針（アセスメント・ポリシー）で定めるアセスメントリストに基づき行う教学アセスメントのうち、特に詳細な分析が必要となる項目についての分析結果を記載する様式を指す。以下、同様。			
② この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、 <u>根拠資料とともに簡条書きで記述すること。</u>			
[活動取組6-1-A] 2018年度から2019年度の「内部質保証に関する調査・研修事業」（活動取組6-8-Dに詳述の「内部質保証に関するスタートアップ支援事業」に採択された取組みの一つ。）及び本事業を通じて策定した「現代システム科学域内部質保証に関する基本方針」（活動取組6-3-Aに詳述）を踏まえて2020年度の学域FD会議及び企画運営会議においてDP及びCPの改訂を行った。これまでのDPIは科目区分を反映した3項目の簡便なものであったため、高等教育における学力観を踏まえた3要素・8項目の詳細なものに改めた。	<a href="#">6-1-A-01 (01)現代システム科学域 内部質保証に関する基本方針 (非公表)</a>		
	<a href="#">6-1-A-02 (01)現代システム科学域 FD会議議事録 (非公表)</a>		
<b>【基準に係る判断】</b> 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。 ■ 当該基準を満たす			
<b>【優れた成果が確認できる取組】</b> 該当なし			
<b>【改善を要する事項】</b> 該当なし			

基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること				
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄	備考		
[分析項目6-2-1] 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が分かりやすいように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	・ 策定された教育課程方針			
	<a href="#">6-2-1-01 (01)現代システム科学域 教育課程方針 (カリキュラム・ポリシー)</a>			
	<a href="#">6-2-1-02 (01)現代システム科学域 成績評価ガイドライン</a>			
	<a href="#">6-1-1-02 (01)現代システム科学域 アセスメントシート (非公表)</a>	分析項目6-2-1		再掲
	<a href="#">2-1-2-01 各部局の教学アセスメントに係る実施方針 (アセスメント・ポリシー) ・アセスメントリスト (観点8)</a>	P. 5-6, P. 21		再掲
	<a href="#">2-1-2-02 アセスメントリスト (観点1-7)</a>			再掲
[分析項目6-2-2] 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	・ 策定された教育課程方針及び学位授与方針			
	<a href="#">6-1-1-01 (01)現代システム科学域 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)</a>			再掲
	<a href="#">6-2-1-01 (01)現代システム科学域 教育課程方針 (カリキュラム・ポリシー)</a>			再掲
	<a href="#">6-1-1-02 (01)現代システム科学域 アセスメントシート (非公表)</a>	分析項目6-2-2		再掲
<b>【特記事項】</b>				
① 上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。				
[分析項目6-2-1] 学習成果の評価の方針に関して、本学では、個々の授業科目における評価の方針をカリキュラム・ポリシーではなく成績評価ガイドラインの中で必ずシラバスに明示するよう定めている。さらに、教育課程全体を通じた学習成果の評価の方針を定めるために、2020年度に「教学アセスメントに係る実施方針 (アセスメント・ポリシー)」を策定した。その中で、教育課程全体を通じた学習成果の達成状況の評価するための項目を検討し、アセスメントリスト (2021年8月施行) として明示した。				
② この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、 <b>根拠資料とともに簡条書き</b> で記述すること。				
[活動取組6-2-A] 2018年度から2019年度の「内部質保証に関する調査・研修事業」及び本事業を通じて策定した「現代システム科学域内部質保証に関する基本方針」を踏まえて2020年度の学域FD会議及び企画運営会議においてDP及びCPの改訂を行った。DPの改訂に合わせ、DPの3つの要素に対応したCPを策定した。	<a href="#">6-1-A-01 (01)現代システム科学域 内部質保証に関する基本方針 (非公表)</a>			再掲
	<a href="#">6-1-A-02 (01)現代システム科学域 FD会議議事録 (非公表)</a>			再掲
<b>【基準に係る判断】</b> 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。 ■ 当該基準を満たす				
<b>【優れた成果が確認できる取組】</b> 該当なし				
<b>【改善を要する事項】</b> 該当なし				

基準6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること			
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄	備考	
[分析項目6-3-1] 教育課程の編成が、体系性を有していること	・ 授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別）		
	<a href="#">1-3-1-01 大阪府立大学学則 R4.4.1改正</a>	第29条	再掲
	<a href="#">6-3-1-01 (00)大阪府立大学履修規程 R4.4.1改正</a>		
	<a href="#">6-3-1-02 (01)現代システム科学域 授業科目の開設状況</a>		
	<a href="#">6-3-1-03 (01)現代システム科学域 標準履修課程表（履修要項）</a>		
	<a href="#">6-3-1-04 (01)現代システム科学域 卒業要件単位数（大学HP 卒業の認定の規程について）</a>		
	・ 体系性が確認できる資料（カリキュラム・マップ、コース・ツリー、ナンバリング等）		
	<a href="#">6-3-1-05 (01)現代システム科学域 カリキュラム・マップ、コースツリー等</a>		
	<a href="#">6-1-1-02 (01)現代システム科学域 アセスメントシート（非公表）</a>	分析項目6-3-1	再掲
<a href="#">6-3-1-06 (00)科目ナンバリング（定義）</a>			
<a href="#">6-3-1-07 (01)現代システム科学域 科目ナンバリングコード付番科目一覧</a>			
[分析項目6-3-2] 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	・ 分野別第三者評価の結果		
	・ 日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが確認できる資料		
	・ シラバス		
	<a href="#">6-3-2-01 (00)大阪公立大学学外公開用シラバス（HP）</a>		
	<a href="#">6-3-2-02 (00)シラバスチェック体制、チェック項目等（シラバス作成要領）2021.11.2教育企画運営会議</a>		
・ その他自己点検・評価において体系性や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料			
[分析項目6-3-3] 他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること	・ 明文化された規定類		
	<a href="#">1-3-1-01 大阪府立大学学則 R4.4.1改正</a>	第34条～第36条	再掲
[分析項目6-3-4] 大学院課程（専門職学位課程を除く。）においては、学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む。）の作成等に係る指導（以下「研究指導」という。）に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること	・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（規定、申告等）		
	・ 研究指導計画書、研究指導報告書等、指導方法が確認できる資料		
	・ 国内外の学会への参加を促進している場合は、その状況が確認できる資料		

	・他大学や産業界との連携により、研究指導を実施している場合は、その状況が確認できる資料		
	・研究倫理に関する指導が確認できる資料		
	・T A・R Aとしての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練を行っている場合は、T A・R Aの採用、活用状況が確認できる資料		
[分析項目6-3-5] 専門職大学院又は専門職学科を設置している場合には、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、教育課程連携協議会を運用していること	・授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別）		
	・教育課程連携協議会の設置・運用に関する規定及び開催実績・内容が確認できる資料		
<b>【特記事項】</b>			
① 上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。			
[分析項目6-3-2] 大阪公立大学の開学に伴い、シラバスを管理する教務システムが新システムに移行し、大阪府立大学・大阪市立大学・大阪公立大学の科目のシラバスを一括して管理しているが、大阪府立大学の学生は、教務システムを通じて自身のカリキュラムに対応する科目のシラバスを確認することができるようになっている。			
[分析項目6-3-2] 各科目の内容の設定にあたっては、一単位の授業科目を45時間の学習を必要とする内容をもって構成する原則を踏まえ、非常勤教員も含む全学の教員に対して「シラバス作成要領」を示し、授業時間外の学習（準備学習）の項目は学生が何をすればよいか分かるように、具体的な内容を記載するよう指示している。さらに、全科目のシラバスについて、教務担当職員が準備学習に関する指示等が具体的に記載されているかどうかを確認し、記載内容が不明瞭・不十分な場合には該当教員に対し追加の記載を指示している。また、ポートフォリオシステムでは各教員は科目（授業）毎に学生の授業時間外学習の状況を把握することができ、各科目において単位の実質化を図ることで、授業科目の内容が授与する学位にふさわしい水準となることを担保している。ポートフォリオシステムに関する取組みについては[活動取組6-3-A]に詳述。			
② この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、 <u>根拠資料とともに簡条書き</u> で記述すること。			
[活動取組6-3-A]授業時間外学習時間の増加に向けた取り組み 本学では、シラバスの充実（【特記事項】①に記載）に加え、ポートフォリオシステムを活用した授業時間外学習時間の増加に向けた取組を行っている（ポートフォリオシステムについては基準6-8の[活動取組6-8-A]に詳述）。ポートフォリオシステムでは授業毎の学生の授業時間外学習時間（予習・復習時間）を把握することができ、全学委員会（教育改革専門委員会）にて半期ごとに学習時間の状況を確認するとともに、特に講義科目について極端に学習時間が少ない学生の割合を減らすことを全学の目標に掲げ、各教員に周知を行ってきた。大阪公立大学においても、ポートフォリオのこの機能は維持され、各教員は授業毎に学生の授業時間外学習時間を確認できるようになっている。	<a href="#">6-3-A-01 (00)授業時間外学習時間の増加に向けた取り組みについて（2018年度第4回教育改革専門委員会資料）</a>		
	<a href="#">6-3-A-02 (00)「授業ふり返り」各質問項目の回等分布経年変化（2021年度第2回教育改革専門委員会資料）（非公表）</a>		
[活動取組6-3-B]「現代システム科学域内部質保証に関する基本方針」に基づくカリキュラム・マップの見直しについて カリキュラム・マップに関して、現代システム科学域では、2020年度から2021年度にかけて学域FD会議および各学類FD会議において、継続的な検討を行い学類ごとに見直しを行った。具体的には、「現代システム科学域内部質保証に関する基本方針」に基づき、学域FD会議において4ポリシーの整備と継続的改善を行うこととし、学類FD会議においてDP・CPの改訂作業とそれに伴うカリキュラム・マップ作成を行った。	<a href="#">6-3-B-01 (01)現代システム科学域 内部質保証スタートアップ支援事業成果報告会（非公表）</a>		
	<a href="#">6-1-A-01 (01)現代システム科学域 内部質保証に関する基本方針（非公表）</a>		再掲
	<a href="#">6-1-A-02 (01)現代システム科学域 FD会議議事録（非公表）</a>		再掲
<b>【基準に係る判断】</b> 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。 <input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす			

【優れた成果が確認できる取組】 該当なし
【改善を要する事項】 該当なし

基準6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること			
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄	備考	
[分析項目6-4-1] 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること	・1年間の授業を行う期間が確認できる資料(学年暦、年間スケジュール等)		
	<a href="#">6-4-1-01 (00)学事日程2021年度</a> <a href="#">6-4-1-02 (00)2022年度以降 授業日程・授業時間の変更について</a>		
[分析項目6-4-2] 各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること	・1年間の授業を行う期間が確認できる資料(学年暦、年間スケジュール等)		
	<a href="#">6-4-1-01 (00)学事日程2021年度</a> <a href="#">6-4-1-02 (00)2022年度以降 授業日程・授業時間の変更について</a>		再掲
	・シラバス		
	<a href="#">6-3-2-01 (00)大阪公立大学学外公開用シラバス (HP)</a>		再掲
[分析項目6-4-3] 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること	・シラバスの全件、全項目が確認できる資料(電子シラバスのデータ(csv)等)		
	<a href="#">6-4-3-01 (00)大阪府立大学シラバス(全件、全項目)(非公表)</a> <a href="#">6-3-2-02 (00)シラバスチェック体制、チェック項目等(シラバス作成要領)2021.11.2教育企画運営会議</a>		再掲
	<a href="#">6-3-1-03 (01)現代システム科学域 標準履修課程表(履修要項)</a>		再掲
	<a href="#">6-4-3-02 (01)現代システム科学域 授業形態別の授業科目の開設状況</a>		
	<a href="#">6-4-3-03 (00)授業形態、学習指導法の工夫を行っている事例</a>		
[分析項目6-4-4] 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること	・教育上主要と認める授業科目(別紙様式6-4-4)		
	<a href="#">6-4-4 (01)現代システム科学域 教育上主要と認める授業科目</a>		
	・シラバス <a href="#">6-3-2-01 (00)大阪公立大学学外公開用シラバス (HP)</a>		再掲
[分析項目6-4-5] 専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度(CAP制度)を設けていること	・CAP制に関する規定		
[分析項目6-4-6] 大学院において教育方法の特例(大学院設置基準第14条)の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること	・大学院学則		
[分析項目6-4-7] 薬学に関する学部又は学科のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするものを設置している場合は、必要な施設を確保し、薬学実務実習を実施していること	・薬学実務実習に必要な施設の状況及び実習の実施状況が確認できる資料		
[分析項目6-4-8] 教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保していること	・連携協力校との連携状況が確認できる資料		
[分析項目6-4-9] 夜間において授業を実施している課程を置いている場合は、配慮を行っていること	・実施している配慮が確認できる資料		

<p>[分析項目6-4-10] 通信教育を行う課程を置いている場合は、印刷教材等による授業、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、指導が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の実施方法（同時性・非同時性、双方向性・非双方向性）について確認できる資料（シラバス、履修要項、教材等の該当箇所）</li> <li>・添削等による指導、質問の受付、チューターの利用、学生間のコミュニケーション等、対面授業と同等以上の教育効果を確保するための方法について確認できる資料</li> <li>・電話・郵便・電子メール等による教育相談、助言体制及びそれらを周知する資料、ウェブサイトによる情報提供等の実施体制及び実施状況が確認できる資料</li> <li>・教育相談、助言の利用実績が確認できる資料</li> </ul>		
<p>[分析項目6-4-11] 専門職学科を設置している場合は、授業を行う学生数が法令に則していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令に則した授業を行う学生数に関して、規定や申合せ等組織として決定していることが確認できる資料</li> </ul>		
<p>【特記事項】</p>			
<p>① 上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>			
<p>[分析項目6-4-3] 非常勤教員も含む全学の教員に対して「シラバス作成要領」を示し、記載すべき項目とその具体的内容や注意事項、記載例を示している。さらに、各教員がシステムを通じて入力した全科目のシラバスについて、教務担当職員が、記載項目に漏れがないか、記載内容が十分であるかの確認を行い、記載漏れがある場合や記載内容が不明瞭・不十分な場合には該当教員に追加の記載を指示することによりシラバスの内容の充実を図っている。また、シラバスは大学Webサイト、教務システムを通じて学生に周知するとともに、ポートフォリオシステムからも直接確認することができるようにし、学生が各回の授業目標・内容を十分理解した上で学習できるようになっている。</p>			
<p>② この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</u></p>			
<p>[活動取組6-4-A]コロナ禍におけるオンライン授業について 2020年度の新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴うオンライン授業の導入以降、オンライン授業の実施方法等に関する情報の需要が高まりを受け、オンライン授業に係る各種参考情報を集約して紹介する「授業改善に役立つコンテンツ集」を授業支援システム（Moodle）上に作成し、非常勤講師を含む全教員等関係者に向けて公開している。このサイトでは、オンライン授業をデザインする際のポイントや、オンライン授業のコンテンツの作成方法、同期型・非同期型でオンライン授業を行う際の様々な手法や事例、オンラインでの課題・小テスト・試験の実施方法等を紹介しており、多様なメディアを活用した授業実施の促進を図っている。併せて、操作方法やトラブル対応などのオンライン授業に関連する学生・教職員からの種々の質問へのサポート体制として、教職協働の「オンライン授業推進チーム」を組成し支援してきた。2022年度以降は対面授業が主となっているが、オンライン授業との混合授業も実施されており、引き続きMoodleに上記コンテンツを公開するとともに、オンライン授業を支援する職員を配置し、メールによる質問対応などを行っている。</p>	<p><a href="#">6-4-A-01 (00)授業改善に役立つコンテンツ集 (非公表)</a></p>		

<p>[活動取組6-4-B]「大学教育再生加速プログラム（AP事業）」（2014～2019年度）における取組みについて</p> <p>現代システム科学域では、受講生同士が受講内容に関する問題を作成し解き合って評価をする「meaQsシステム」を開発・展開した。このシステムは、講義型授業をアクティブ・ラーニング化するための授業支援ツールであり、授業を受けている学生同士がお互いに授業内容を理解できているか確かめるための問題を作り、共有しながら、学習を進めていくという協調学習環境を学生に提供する。このシステムの成果については、AP総括シンポジウムにおいて「授業内外を含めたアクティブ・ラーニング環境の構築—meaQsシステムの概要とその成果」を報告している。また、環境システム学類では、タブレットPCを専門科目の演習科目において学生に貸与し、授業内外の学習環境を充実させた。この成果については、FDセミナーアクティブ・ラーニング報告会において報告された。</p>	<p><a href="#">6-4-B-01 (01)AP総括シンポジウム「meaQsシステムの概要とその成果」(非公表)</a></p>		
	<p><a href="#">6-4-B-02 (01)アクティブ・ラーニング報告会「タブレットPC導入による学習の活性化と課題」(非公表)</a></p>		
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。</p> <p>■ 当該基準を満たす</p>			
<p>【優れた成果が確認できる取組】</p> <p>該当なし</p>			
<p>【改善を要する事項】</p> <p>該当なし</p>			



基準6-5 学位授与方針に則して、適切な履修指導、支援が行われていること			
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄	備考	
[分析項目6-5-1] 学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること	・履修指導の実施状況（別紙様式6-5-1）		
	<a href="#">6-5-1 (01)現代システム科学域 履修指導の実施状況</a>		
	<a href="#">6-5-1-01 (01)現代システム科学域における履修ガイダンスの実施状況（非公表）</a>		
	<a href="#">6-5-1-02 (00)学生アドバイザー業務説明会資料（2021年度 学生アドバイザーの手引）（非公表）</a>		
	<a href="#">6-5-1-03 (00)学術の発展動向（担当教員の研修成果を含む。）を反映した授業科目の事例</a>		
	<a href="#">6-5-1-04 (00)他学域（自由選択枠）の授業科目の履修状況</a>		
	<a href="#">6-5-1-05 (00)編入学、転学域・転学類への配慮状況</a>		
	<a href="#">6-5-1-06 (00)他大学との単位互換</a>		
	<a href="#">6-5-1-07 (00)交換留学制度の実施状況</a>		
	・通信教育を行う課程を置いている場合は、履修指導の体制が確認できる資料		
[分析項目6-5-2] 学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること	・学習相談の実施状況（別紙様式6-5-2）		
	<a href="#">6-5-2 (01)現代システム科学域 学習相談の実施状況</a>		
	・通信教育を行う課程を置いている場合は、学習相談の体制が確認できる資料		
[分析項目6-5-3] 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること	・社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組（別紙様式6-5-3）		
	<a href="#">6-5-3 (01)現代システム科学域 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組</a>		
	・インターンシップを実施している場合は、その実施状況が確認できる資料（実施要項、提携・受入企業、派遣実績等）		
	<a href="#">6-5-3-01 (00)インターンシップ科目受講者数・単位習得者数、インターンシップ参加者数</a>		
	<a href="#">6-5-3-02 (00)インターンシップに関する情報提供等（学内ポータル）（非公表）</a>		
[分析項目6-5-4] 障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制を整えていること	・履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況（別紙様式6-5-4）		
	<a href="#">6-5-4 (00)履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況</a>		
	・チューター等を配置している場合は、その制度や配置状況が確認できる資料		
	<a href="#">4-2-3-01 外国人留学生アドバイザー規程</a>		再掲
	<a href="#">4-2-3-02 チューター制度実施要項</a>		再掲
<a href="#">4-2-3-03 学生チューター数、留学生チューター制度利用者数</a>		再掲	

・留学生に対する外国語による情報提供（時間割、シラバス等）を行っている場合は、その該当箇所		
<a href="#">6-5-4-01 (00)留学生に対する外国語による情報提供（教学）（非公表）</a>		
<a href="#">4-2-3-06 外国人留学生の手引（日本語・英語）</a>		再掲
・障害のある学生に対する支援（ノートテーカー等）を行っている場合は、その制度や実施状況が確認できる資料		
<a href="#">4-2-4-04 アクセスセンターご利用の手引き（教職員用）（非公表）</a>		再掲
<a href="#">4-2-1-08 大阪府立大学アクセスセンター規程</a>		再掲
・特別クラス、補習授業を開設している場合は、その実施状況（受講者数等）が確認できる資料		
<a href="#">6-5-4-02 (00)特例科目の実施状況 受講者数</a>		
・学習支援の利用実績が確認できる資料		
<a href="#">4-2-3-03 学生チューター数、留学生チューター制度利用者数</a>		再掲
<a href="#">6-5-4-03 (00)障がいのある学生に対する支援（ノートテーカー等）の実績</a>		

## 【特記事項】

① 上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。

[分析項目6-5-1][分析項目6-5-2]

大阪公立大学開学後も大阪府立大学の各学類・専攻の学年ごとに学生アドバイザーに相当する教員を配置し、学生の修学等生活全般に関して相談に応じ、指導・助言を行う。

[分析項目6-5-4]

大阪公立大学開学後も大阪府立大学の各学域（学類、課程）に外国人留学生アドバイザーに相当する担当教員を配置し、外国人留学生の学生生活全般についての相談役を担う。また、アクセシビリティセンター（支援拠点）及びアクセシビリティ支援委員会（全学委員会）を組織し、障がいのある学生の学習支援を行う。

② この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。

該当なし

【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。

■ 当該基準を満たす

【優れた成果が確認できる取組】

該当なし

【改善を要する事項】

該当なし

基準6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること			
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄	備考	
[分析項目6-6-1] 成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること	・成績評価基準		
	<a href="#">6-3-1-01 (00)大阪府立大学履修規程 R4.4.1改正</a>	第14条	再掲
	<a href="#">6-2-1-02 (01)現代システム科学域 成績評価ガイドライン</a>		再掲
	<a href="#">6-6-1-01 (00)大阪公立大学履修規程</a>	第13条	
	<a href="#">6-6-1-03 (00)大阪公立大学成績評価ガイドラインの策定依頼について (第8回教務準備委員会資料)</a>		
[分析項目6-6-2] 成績評価基準を学生に周知していること	・成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該当箇所		
	<a href="#">6-3-1-03 (01)現代システム科学域 標準履修課程表 (履修要項)</a>	P. 7	再掲
	<a href="#">6-3-2-01 (00)大阪公立大学学外公開用シラバス (HP)</a>		再掲
[分析項目6-6-3] 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること	・成績評価の分布表		
	<a href="#">6-6-3-01 (01)現代システム科学域 成績評価の分布表 (GPC一覧) 2021年度 (非公表)</a>		
	・成績評価分布等のデータに関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料		
	<a href="#">6-6-3-02 (00)GPC及びGP分布の部局へのフィードバックについて (2018年度教育改革専門委員会資料)</a>		
	<a href="#">6-2-1-02 (01)現代システム科学域 成績評価ガイドライン</a>		再掲
	・GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料		
	<a href="#">6-6-3-03 (00)GPA制度の目的及び実施状況 (活用状況)</a>		
[分析項目6-6-4] 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること	・(個人指導等が中心となる科目の場合) 成績評価の客観性を担保するための措置についてわかる資料		
	<a href="#">6-1-1-02 (01)現代システム科学域 アセスメントシート (非公表)</a>	分析項目6-6-3	再掲
	・学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料		
	<a href="#">6-6-4-01 (00)成績評価に対する異議申し立て (大学HP)、2022年度以降の成績評価異議申し立て (2021年度第10回教育企画運営会議)</a>		
	・申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ		
<a href="#">6-6-4-02 (00)異議申し立て制度の実施状況 (非公表)</a>			
・成績評価の根拠となる資料 (答案、レポート、出席記録等) を保存することを定めている規定類			
<a href="#">6-6-4-03 (00) 期末試験等のエビデンス管理 (2019年度第10回教育企画運営会議)</a>			

<b>【特記事項】</b>			
① 上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。			
[分析項目6-6-1] 成績評価基準は、2022年4月に履修規程を改正し、成績の評価に係る評語、評語を適用する際の判断基準（授業目標の達成度合い）、グレードポイント（各評語に与えられる数値）及び100点方式による素点と対応関係を定めている（履修規程第14条）。また、個々の授業科目については、成績評価ガイドラインにおいて、シラバスに授業目標とその達成度の評価方法、履修規程に定める単位修得するために最低限必要となる基準・レベルを示すこととしている。しかし、2021年度に実施した自己点検・評価（教学アセスメント）で、成績評価基準の策定（履修規程の改正）にともなう成績評価ガイドラインの改訂ができていないことが明らかとなった。このような課題があったが、大阪公立大学では大阪府立大学の成績評価基準と同様の基準を定め、この基準に沿って成績評価を行うようガイドラインを制定していることから、2022年以降は大阪府立大学の成績評価についても大阪公立大学と同様のガイドラインに沿って実施していくこととなる。			
[分析項目6-6-3] 成績評価ガイドラインの中でGPCや成績評価分布の目安を示し、半期ごとに、GPC一覧（授業ごとのGP分布、平均GP値）に基づき、成績分布の偏りやクラス間の差を確認するなどの方法で成績評価の点検を行い、授業改善等に活用することとしている。			
② この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、 <u>根拠資料とともに</u> 箇条書きで記述すること。			
該当なし			
<b>【基準に係る判断】</b> 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。 ■ 当該基準を満たす			
<b>【優れた成果が確認できる取組】</b> 該当なし			
<b>【改善を要する事項】</b> 該当なし			

基準6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること			
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄	備考	
[分析項目6-7-1] 大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定していること	・卒業又は修了の要件を定めた規定		
	<a href="#">2-1-2-03 大阪府立大学 現代システム科学域規程</a>	第12条	再掲
	<a href="#">6-3-1-03 (01)現代システム科学域 標準履修課程表（履修要項）</a>	P. 22, 30, 38	再掲
	・卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料		
	<a href="#">1-3-1-01 大阪府立大学学則 R4.4.1改正</a>	第48条	再掲
	<a href="#">1-3-2-01 大阪府立大学教授会等規程</a>	第3条	再掲
[分析項目6-7-2] 大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文評価基準」という。）を組織として策定していること	・学位論文（課題研究）の審査に係る手続き及び評価の基準		
	・修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料		
[分析項目6-7-3] 策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む。）を学生に周知していること	・卒業（修了）要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料、ウェブサイトへの掲載等の該当箇所		
	<a href="#">6-3-1-04 (01)現代システム科学域 卒業要件単位数（大学HP 卒業の認定の規程について）</a>		再掲
	<a href="#">6-3-1-03 (01)現代システム科学域 標準履修課程表（履修要項）</a>		再掲
[分析項目6-7-4] 卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む。）に則して組織的に実施していること	・教授会等での審議状況等の資料		
	<a href="#">6-7-4-01 (01)現代システム科学域 卒業判定に係る教授会資料（卒業判定資料、議事録）（非公表）</a>		
	〈専門職学位課程を除く大学院課程の分析〉 ・学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る評価基準、審査手続き等		
	〈専門職学位課程を除く大学院課程の分析〉 ・学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料		
[分析項目6-7-5] 専門職学科を設置している場合は、法令に則して卒業要件が定められていること	・法令に則した卒業要件が組織として定められていることが確認できる資料		
<b>【特記事項】</b>			
① 上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。			
該当なし			
② この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。			
該当なし			
<b>【基準に係る判断】</b> 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。			
■ 当該基準を満たす			

<p>【優れた成果が確認できる取組】 該当なし</p>
<p>【改善を要する事項】 該当なし</p>

基準6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること				
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄	備考		
[分析項目6-8-1] 標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則した状況にあること	・標準修業年限内の卒業（修了）率（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（過去5年分）（別紙様式6-8-1） <a href="#">6-8-1 (00)標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（過去5年分）</a>			
	<a href="#">6-1-1-02 (01)現代システム科学域 アセスメントシート（非公表）</a>	分析項目6-8-1	再掲	
	・資格の取得者数が確認できる資料 <a href="#">6-8-1-01 (00)教育職員免許取得状況</a>			
	・論文の採択・受賞状況、各コンペティション等の受賞状況が確認できる資料 <a href="#">6-8-1-03 (00)学会等における学生の受賞事例（学長顕彰受賞者抜粋）</a>			
[分析項目6-8-2] 就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則した状況にあること	・就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況（過去5年分）（別紙様式6-8-2） 主な進学/就職先（起業者も含む。） <a href="#">6-8-2 (00)就職率及び進学率の状況</a>			
	<a href="#">6-1-1-02 (01)現代システム科学域 アセスメントシート（非公表）</a>	分析項目6-8-2	再掲	
	・学校基本調査で提出した「該当する」資料（大学ポートレートにある場合は該当URL） <a href="#">6-8-2-01 (01)現代システム科学域 学校基本調査（卒業後の状況調査）（非公表）</a>			
	・卒業（修了）生の社会での活躍等が確認できる資料（新聞記事等） <a href="#">6-8-2-02 (00)卒業生記事一覧（非公表）</a>			
[分析項目6-8-3] 卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	・学生からの意見聴取（学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 <a href="#">6-8-3-01 (01)現代システム科学域 学生調査結果（卒業予定者アンケート）（非公表）</a>			
	<a href="#">6-8-3-02 (01)現代システム科学域 卒業予定者アンケート 2019-2021年度（非公表）</a>			
	<a href="#">6-1-1-02 (01)現代システム科学域 アセスメントシート（非公表）</a>	分析項目6-8-3	再掲	
[分析項目6-8-4] 卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	・卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 <a href="#">6-8-4-01 (01)現代システム科学域 卒業生調査結果（非公表）</a>			
	<a href="#">6-8-4-02 (01)現代システム科学域 卒業生調査2021集計結果（非公表）</a>			
	<a href="#">6-1-1-02 (01)現代システム科学域 アセスメントシート（非公表）</a>	分析項目6-8-4	再掲	
[分析項目6-8-5] 就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	・就職先や進学先等の関係者への意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 <a href="#">6-8-5-01 (01)現代システム科学域 就職先アンケート結果（非公表）</a>			
	<a href="#">6-1-1-02 (01)現代システム科学域 アセスメントシート（非公表）</a>	分析項目6-8-5	再掲	

【特記事項】			
① 上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。			
該当なし			
② この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに簡条書きで記述すること。			
<p>[活動取組6-8-A]ポートフォリオシステムについて eポートフォリオを導入し、学生による学びの自己評価を中心としたアンケートを実施している。本システムでは、学期末、各受講科目について、学生に学習プロセスと達成度（学習成果）の自己評価（「授業ふり返り」）を行わせ、データを蓄積・可視化して、学生と教員に提示している。これにより、自律的学習者の育成を進めるとともに、授業担当教員の授業改善に役立てている。また、学習成果だけでなく成果獲得に至るプロセスにも着目してデータを取りまとめ、各部局や大学全体に提供して教育上の課題発見等に活かしている。なお、2015年度後期には12.7%だった「授業ふり返り」の入力率は、システムとその運用の改善等により、2020年度後期には66.9%に上昇している。この他、本学全体のディプロマ・ポリシーに相当する「大阪府立大学学士課程が目指す学修成果」についても学生に自己評価を行わせ、大学全体としての教育成果の確認に用いている。 大阪公立大学のポートフォリオシステムにおいてもこれらの機能は継続されるとともに、さらに充実させた機能としてクリッカーや成果物を登録するショーケース機能をシステムに追加し、運営している。</p>	<a href="#">2-3-B-02 ポートフォリオシステムの概要（授業ふり返り質問項目、入力率の経年変化等）（非公表）</a>		再掲
	<a href="#">6-8-A-01 (00)大阪府立大学学士課程が目指す学修成果（大学HP）</a>		
<p>[活動取組6-8-B]アセスメントリストに基づく、学習成果に関するアセスメントの実施について 各学域、研究科及び高等教育推進機構は「教学アセスメントに係る実施方針（アセスメント・ポリシー）」を策定し、教学アセスメントの責任者、実施体制及び実施手順を定めている。その中で、領域6の各基準に対応するアセスメントの項目を「アセスメントリスト」（データの種類やアセスメントの頻度、アセスメントの方法などを定めたもの）という形で定め、特に重要な項目については、アセスメントの結果をアセスメントシートにまとめ、自己評価のデビデンスとして本評価書のエビデンスとして添付している。なかでも学習成果に関しては、領域6の各基準に定める根拠資料・データに加えて本学独自のアセスメントの項目を定めており、上記ポートフォリオのデータも活用したアセスメントを実施している。</p>	<a href="#">2-1-1-05 大阪府立大学における教育の内部質保証に関する方針</a>		再掲
	<a href="#">2-1-2-01 各部局の教学アセスメントに係る実施方針（アセスメント・ポリシー）・アセスメントリスト（観点8）</a>		再掲
	<a href="#">2-1-2-02 アセスメントリスト（観点1-7）</a>		再掲
	<a href="#">6-1-1-02 (01)現代システム科学域 アセスメントシート（非公表）</a>		再掲
	<a href="#">6-8-B-01 (01)現代システム科学域 「授業ふり返り」集計データ（非公表）</a>		
<p>[活動取組6-8-C]内部質保証に関するスタートアップ支援について 2017年度に設置した教育戦略室（教育戦略室については領域2に詳述）が主体となり、各部局における内部質保証システムの構築を推進するための施策として、2018年度から「内部質保証に関するスタートアップ支援事業」を開始し、教育プログラム（学士課程を対象）における学習成果を分析・評価し、改善・向上を図る部局での取組への経費支援を行っている。2018年度：6件（8,646千円）、2019年度：1件（1,542千円）、2020年度：4件（5,587千円）に対し支援を行い、各部局における事業の成果を全学に対して報告・共有している。 現代システム科学域では、2018年度「教育の内部質保証に関する調査・研修事業」・「meaQsシステムを用いた学修成果の把握と心理教育プログラムの評価」、2020年度「meaQs/forQs システムを用いた学士課程教育の実質化と学修成果の把握」・「分野融合型PBL の設計と評価方法の確立」が採択された。</p>	<a href="#">2-3-A-01 内部質保証に関するスタートアップ支援事業2020公募要領</a>		再掲
	<a href="#">2-3-A-02 内部質保証に関するスタートアップ支援事業採択状況（非公表）</a>		再掲
	<a href="#">6-8-C-01 (01)内部質保証に関するスタートアップ支援事業2018-2019（現シス教育の内部質保証）（非公表）</a>		
	<a href="#">6-8-C-02 (01)内部質保証に関するスタートアップ支援事業2018-2019（現シスmeaQs）（非公表）</a>		
	<a href="#">6-8-C-03 (01)内部質保証に関するスタートアップ支援事業2020-2021（現シスmeaQs）（非公表）</a>		
	<a href="#">6-8-C-04 (01)内部質保証に関するスタートアップ支援事業2020-2021（現シスPBL）（非公表）</a>		



<p>[活動取組6-8-D]教育の内部質保証に関する調査・研修事業                  本学域は、多様な分野が融合していることが特徴であり、自己点検・評価やPDCAサイクルの考え方も分野ごとに多様である。そのため、内部質保証に関する情報や知識を学域内で共有した上で質保証の体制を構築する必要があった。そこで、資料収集や専門家を招いた研修会を実施し、学域の内部質保証に関する基本方針を策定した。この基本方針を確かなものとするために、外部評価委員会を組織し、評価・改善を行った。この方針は、4ポリシーの整備と継続的改善・ルーブリックの活用と継続的改善・組織体制の構築と継続的改善の3つから成り、この方針に基づいて、学域FD会議及び学類FD会議を組織し、DP、CPの改定及びカリキュラム・マップの見直しを行った。大阪公立大学開学後も、現代システム科学域FD会議及び各学類FD会議を組織し、基本方針に基づく内部質保証システムの構築し改善を行っていく。</p>	<p><a href="#">6-3-B-01 (01)現代システム科学域 内部質保証スタートアップ支援事業成果報告会 (非公表)</a></p>		再掲
<p>[活動取組6-8-E]meaQsシステムを用いた学修成果の把握と心理教育プログラムの評価・meaQs/forQs システムを用いた学士課程教育の実質化と学修成果の把握                  meaQsシステムなどによって作成した問題を蓄積し、学生にそれらの問題に取組ませることを可能とするforQsシステムを開発した。このシステムは、形成的評価（教授・学習活動の途中で行われる評価のことで、生徒と教師にフィードバックを与え、学力の形成を促進する機能）を有する学習評価ツールである。この事業では開発のみならずmeaQsとforQsを連携させることで、人間環境科学課程における教育プログラムを形成的に評価することで内部質保証の体制を構築した。具体的に、forQsの開発、人間環境科学課程教員全員を対象とした meaQs/forQs システム運用検討、forQs の問題プールへの問題移行、授業における meaQs システムを用いた授業実践と forQs を用いた形成的アセスメントの実施した。</p>	<p><a href="#">6-4-B-01 (01)AP総括シンポジウム「meaQsシステムの概要とその成果」 (非公表)</a>  <a href="#">6-8-C-02 (01)内部質保証に関するスタートアップ支援事業2018-2019 (現シスメaQs) (非公表)</a>  <a href="#">6-8-C-03 (01)内部質保証に関するスタートアップ支援事業2020-2021 (現シスメaQs) (非公表)</a>  <a href="#">6-8-E-01 (01)成果報告会「meaQsシステムを用いた学修成果の把握と心理教育プログラムの評価」 (非公表)</a>  <a href="#">6-8-E-02 (01)meaQsシステムの紹介 (大学HP)</a></p>		再掲 再掲 再掲
<p>[活動取組6-8-F]分野融合型PBLの設計と評価方法の確立                  大阪公立大学現代システム科学域では、4学類にまたがる分野横断型のPBLを導入する。しかし、バックグラウンドが異なる学生が参加する分野横断型のPBLの設計及び成績評価の手法は確立されていない。そこで、本事業では分野横断型のPBLを導入している大学等の先行事例を調査した。具体的には、国際バカロレア教育を導入している高等学校等への調査により国際バカロレア特別選抜の出願要件等を検討し、学域で展開する分野横断型PBLと国際バカロレア教育との接続を図った。また、従来から本学と包括連携協定を締結し内閣府スーパーシティ構想を持つ自治体からは、地域再生、医療、福祉など本学域で開講するPBL プログラムと関連の深い課題解決が求められていることが明らかとなり、PBLの連携先としての調整が進んでいる。</p>	<p><a href="#">6-8-C-04 (01)内部質保証に関するスタートアップ支援事業2020-2021 (現シSPBL) (非公表)</a></p>		再掲
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。                  ■ 当該基準を満たす</p>			
<p>【優れた成果が確認できる取組】                  ・内部質保証スタートアップ支援事業を通じてアセスメント・ポリシーも含めた4ポリシーの整備とFD会議体制の構築によって学域の教育全体の質を保証する体制を構築した。                  ・AP事業および内部質保証スタートアップ支援事業を通じて、実際の授業科目で学生が主体的・協動的に学習に取り組むことができる授業支援ツールシステム (meaQs) を開発し、全学的に展開した (2020年度・利用教員数約83名・科目数52科目・利用学生前後期共1500名)。2018年度からは、meaQsシステムにforQs機能を追加し、大阪公立大学現代システム科学域における学士課程の質保証の実現に向けて素地を整えた。</p>			
<p>【改善を要する事項】                  該当なし</p>			